

【経営の重点評価】 A4点 B3点 C2点 D1点 → 平均値 A 4~3.2 B 3.2~2.5 C 2.5~1.8 D 1.8~1 + α

		教職員 自己評価項目	評価	評価の根拠（子供の姿）
自ら行動する力 【自律】	1	子供は、自分を律しながら、自ら考えて行動している。	B 2. 53	<ul style="list-style-type: none"> ・時間で教室に入る、切りかえる…ができるようになってきている。 ・自分なりに正しい行動はわかっているが、考えて行動するためには、声掛けが必要な場面がある。 ・自分が正しいと思うことを貫ける子供が少しずつ出てきた。また、「〇〇していいですか。」から「〇〇します。」と、自分で考えて行動できるようになっている。 ・児童会の活動などから「目的」を達成するための「手段」という思考の流れがまだ身についていない児童が多いと感じる。(全校生) ・「自分から考えて行動」は概ねできているが、「自分を律して」はまだまだだと感じる。きまりやルールは理解していながらも、善悪の判断や切り替えができていない姿が全学年目立つ。 ・授業や活動の内容を見通して準備したり、学級・学校ファーストを合言葉に行動したりしている。 ・良いことも悪いことも、周りの子に流される子供がいた。 ・自分を律することは学年にもよると思うが、自ら考えて行動することは、子供同士のかかわりから感じ取ることがある。 ・自ら考えて行動している時もあるが、周りの子供に流され、教師の声かけが必要な場面がある。 ・学年の段階に応じて、自分を律する力が、時間・時刻を意識した行動にも結び付けたい。 ・～さんがやっていたからと、流されて行動したり相手のせいにししたりする場面も見られる。 ・一人一人の個性があるので差はあるが、考えて行動している児童の方が多いと思う。 ・自分が好きな事に対して積極的に考えて行動する力は素晴らしいと思う。
踏み出す力 【挑戦】	2	子供は、やりたいこと、初めてのこと、苦手なことにも挑戦している。	B 2. 62	<ul style="list-style-type: none"> ・とび箱の高い段や長縄跳びなど、初めてのことに臆することなく挑戦する子供が多い。 ・「間違えても大丈夫」と安心して挑戦する児童が徐々に増えている。 ・周囲の子供から感化されたり、励まされたりすることで、前向きになれる場面が多く見られる。 ・新しいことに挑戦する気持ちはあっても、項目1で述べた力が未熟なために、無鉄砲な挑戦になってしまっている印象を受ける。(全校生) ・やりたいことに対する挑戦はよいが、その他への挑戦は、挑戦することが目的になってしまっていて思考が伴っていない。無鉄砲に感じてしまうことが多い。 ・踏み出す意欲は、大いに言動に見られる。あとひと息の子に、みんなでよいきっかけを作りたい。 ・失敗や間違いを恐れたり、面倒くさいと言ったりして、なかなか挑戦できない子供がいた。 ・委員会活動を見ていると、新しいことに挑戦したい姿がよくみられる。 ・初めてのことや苦手なことに挑戦する子供もいれば、面倒くさいと言って挑戦できない子供もいた。友だちから励まされ、挑戦できたこともあった。 ・何事に対しても、まずはやってみようとする態度が伺える。 ・やりたいことは大いにやれるが、苦手な事はやらない傾向がみられる。 ・給食の場面では、初めてのもの、苦手なものの ・チャレンジができない子供が多いなど感じる。 ・初めてにわくわくする気持ちはあるようだが、苦手に挑戦する力はもっと付けたい。
人を大切にする力 【尊重】	3	子供は、自分も人も大切にしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分と違う考え、行動を見たときに、強い言葉を使ってしまう場面がある。 ・自己評価が高いことから、自分のことを大切にしていると感じる。また、他人に対しても、いろいろな課題を抱えている友達がいっても、丸ごと受け止めることができている。

			<p style="text-align: center;">C</p> <p style="text-align: center;">2. 46</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ファーストな行動が非常に目立つ。(4年生) ・掃除・休み時間の場面で、他学年同士の言葉に優しさが感じられる。しかし、同学年となると、言葉遣いが荒くなる・手が出るなどが多々見られる。 ・自分と仲間のがんばりや成長を毎日ふり返ったり、伝え合ったりして、心を通わせている。 ・小さなトラブルがあるが、その都度話し合って解決に繋げていた。 ・校長先生がお話くださっているが、自分を大切にすることがどういうことか理解すること、人を大切にすることがどういうことかは分かっているが、それを実行することは難しいように思う。 ・自分を大切にしているが、人を大切にしているかは今一つ。自己中心的な考え、行動が見られた。 ・人を大切にすることが必要であることは理解しているものの、自分本位が優先してしまう場面が多く見受けられる。 ・子供たち同士の言葉遣いでは、NGワード(人を傷つける言葉)を使う児童も多い。 ・どちらも大切にしている。 ・大切という言葉の意味を理解しようとはしていても、実際に自他に対する行動に結びつけるのは難しい。
<p>考え抜く力</p> <p>【創造】</p>	4	<p>子供は、対話や探究を通して新しい考えに気づき、自分の考えを深めている。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">2. 62</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ友達の考えに触れる機会を増やしている。 ・対話で新しい考えに気づくことはあるが、探究する姿はあまり見られない。 ・自分の考えを深めるところまでは、まだ至っていない。 ・集団での議論でも、臆せず発言できる児童が多い。(全校生) ・授業の中での言葉や普段の会話の内容に対して、自ら興味関心をもち、自分で調べる・人に聞くなどの行動が見られる。 ・授業の学びを自分の言葉にして書き加えたり、自主学習で深めたりしている子が多い。 ・ペア学習やグループ学習を通して、新しい気づきをもつ子が見られた。そこから考えが深まっているかとなると、まだできていないと感じる。 ・サマーQタイムの取り組みを見ていると、様々な内容で取り組んでいた。探究の思考を日常にも生かしていければと思う。 ・対話や研究を通して新しい考えに気づくが、自分の考えを深めるところまでは至っていない。 ・ペア・グループ学習を通して学びを深め、新たな考えを導き出そうと努力する姿勢が伺える。 ・相手の気持ちを考える前に、自分の気持ちを爆発させてしまう児童の姿がある。 ・探究心は高いと思うが、新しい考えに気付いているのかはよく分からない。 ・対話の積極性には個人差が大きいですが、概ねできている。
<p>学びづくり</p> <p>主体的・協働的に学ぶ子供の育成</p> <p>①自ら学ぶ力の育成</p> <p>②個別最適な学び</p>	5	<p>子供は、自分事(学習や学習内容が自分に役立つ関係があると考えて)として学んでいる。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">2. 69</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活と関係があることに気付いている。 ・自学のノートなどを見ても、まだまださせられている感がある。 ・家庭での自主学習で、学習の目的を明確に書くことができる児童が増えてきた(4年生) ・一生懸命に学習に取り組んでいるとは思うが、学習した内容を私生活に活かそうとする次への意欲的なものはなかなか感じられない。 ・「～の場面に関係あるね。～で役立ちそう。」と反応したり、みんなで意識したりして取り組んだ。 ・やってみたい・できるようになりたいという気持ちで、学習に取り組んでいた。 ・学習を頑張る姿は見られるが、自分事として学んでいるかは分からない。 ・学習内容が自分に役立つと思っている場面は少し。自分事として学んでいるかは分からない。 ・全国学力・学習状況調査結果において、「学習が将来自分に役立つ」と考えている子供が多い。

<p>と協働的な学びの一体的な充実</p> <p>③キャリア教育・体験活動の充実</p> <p>④スタートカリキュラムの実践</p> <p>⑤言葉で思考する習慣の育成</p> <p>⑥教科担任制の推進</p>	6	<p>子供は、学ぶ方法（個別、協働）を身に付け、場面に合った学び方ができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年には多いと思うが、低・中ではそこまで意識していないと思う。 ・教師が促さなければ自分事として捉えて学ぶことは少ないと感じる。 ・自ら学ぶ方法はまだ身についていない。 ・内容に応じて、個別で、ペアで、グループでなど、いろいろなパターンで学習し、それぞれの良さを子供たちが感じ取り、選択できるようになっている。 ・項目1と同じ。目的に合うように手段(個別、協働)を選ぶ力が弱いと感じる。(全校生) ・運動会や委員会、普段の生活を見ると、自分にあった方法を考えて選んでいる姿がある。しかし協働の部分で課題はある。やはりその場にいるだけ状態の人がいる。 ・学び方進め方をみんなで共有して取り組んだり自然に語り合ったり教え合ったりする姿がある。 ・教員の声がかげなくても、友達に教えたり、友達に尋ねたりする場面が見られた。 ・場面や目的に合わせて自己選択できているのはまだ一部に思うが、教師側から具体例を出したり促したりして、選択する根拠を子供達が理解していければと思う。 ・友達に教えたり尋ねたりする場面が見れたが、まだ自ら学ぶ方法は身についていない。 ・学ぶ方法を自ら選択できる子供が増えてきている一方で、学びを友達に依存してしまう子供も見受けられる。 ・経験値が多い子供ができていないのではないかと感じる。
	7	<p>子供は、体験や経験で身に付けたことを、自分の生活に生かしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今は体験・経験をためている時期。これから生かしていくことを楽しみにしている。 ・国語科で身に付けた文章を書く力を他教科にも活用できている姿がある。 ・社会科で学習した方角を生活の場面で使ってみるなど、生かせる場面で使っている。 ・身の回りでおきる出来事や新たな情報を自分に吸収しようとする、オープンさを感じる(4年生) ・体験や経験はもちろん、既習した内容から考えようとする姿が多く見られた。 ・日常の中で様々生かしている。 ・前に経験したことを、違う場面で思い出して活用しようとする子がいた。 ・関連付けて生かしている場面をあまり見られなかった。経験を積ませたい。 ・体験や経験で身に付けたことを、自分の生活に生かした場面はあまり見られなかった。 ・子供たちはそれぞれ関係づけて生活しているのかもしれないが、子供の姿として感じる場面があまり見られない。 ・「早ね」「メディア」などの生活リズムで感じた健康の感覚に気づくことができるが、継続する力はまだ課題がある。 ・最初は生かしていても、時間が経つと元に戻ってしまっているのでは、と感じるところもある。 ・清掃が上手でないのは、経験を自身の生活に生かそうとする意識が低い影響かなと感じる。
	8	<p>子供は、教科のつながりや生活とのつながりを意識して学んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・道徳は、日々の生活を引き合いに出しながら学習をしている。 ・水のかさのたんいの単元で、長さの単位の計算と同じ方法だと気づいていた。 ・自分から気付ける子供は少ないが、「これってこの間の・・・」などに反応できる子供が増えた。 ・Qタイムで地域と協働で学習課題を設定したことや、言語能力との関連を意識してカリ・マネを行ったことがよく機能していると感じる。(4年生) ・全教科とは言えないが、学習した内容を生活のどこで利用するか意識しているように感じる。 ・「～とつながるなあ。」と教科を越えたつながりを意識できている。 ・サマーQタイムの取り組みでは、普段の生活で気になったことを調べている子がいた。 ・自分で気づくことは難しいように見えるので、こちらからつなげていけるような声掛けも必要。

				<ul style="list-style-type: none"> • つながりに気づくこともあったが、まだ意識して学んでいるところまでは至っていない。 • 問い返しにより、以前学んだことが、今取り組んでいる学びに役立つことに気づくことができる。 • 先生方の助言で意識できる子が増えていると思う。
	9	子供は、自分の考えや感情を言葉で相手に伝えたり表現したり（音声・文字）している。		<ul style="list-style-type: none"> • 書いて伝えようという意欲が高まってきている。 • 代わりに先生が注意してくださいと言われることが減り、自分で気持ちを伝えることができる。 • 自分の考えを相手に伝えることに抵抗がある子供が多い。当番の話などは、何も話せない子供が多い。 • 項目4と同じ。集団での議論でも、臆せず発言できる児童が多い。伝える手段については項目1と同じ。目的に合うように手段を選ぶ力が弱い。(全校生) • 口で伝えることには課題点はあるが、文字で表現できる子もいる。文字が手書きなのかタブレットなのかは実態にもよるが、自分に合った表現の仕方を考える姿が多い。 • いつも言葉にする大切さを共有し、実行している。 • 良いことは言葉にできるが、困った場面・謝る場面などでは、表現することが難しい。 • 話合いなどの場では、話すことができている子はいる。子供同士の場でもできていけるとよい。 • 自分の楽しい話や嬉しい話は伝えられるが、困っている時や謝る時などは伝えるのが難しい。 • 対教師だけでなく、子供たち同士で相手意識をもって表現する力を伸ばしていきたい。 • 自ら考えて相手に感情を言葉で伝えるのは難しい。大人の働きかけにより、ようやく自分の言葉で表現する場面がある。 • 自分の考えを言葉にする力がまだ足りないと感じる。 • 事実を伝えることは出来ても感情を言葉で表せない未熟さがあり、語彙力が乏しい。
	10	子供は、自分の得意不得意などのメタ認知を、学び方や意欲に繋げている。		<ul style="list-style-type: none"> • 不得意なことに対して、意欲がなくなる児童が多い。 • 不得意なことについてどうすればよいか、わかっている。 • メタ認知と努力の成果をつなげる手段として、小テストと自学を関連させることが有効に機能していると感じる(4年生) • 不得意なことに引っ張られてしまい、ネガティブなところで、学び方・意欲につながっていないように感じる。 • ほとんどの子がその日の学びを認知して、自主学習に意欲的に取り入れている。 • メタ認知がまだ乏しい。子供が自分の得意・不得意を分析する時間や、担任の気づきを伝えて子供がそれを認める場面を作りたい。(特支) • 自分の得意不得意などのメタ認知を自覚しているとは思いますが、それをどう生かしたり克服したりしているかのすべを知らないように感じる。 • 不得意なことは、意欲がなくなることもあった。 • メタ認知を自覚しているものの、向上または解決する方法を意識するまでには至っていない。 • 前向きに考え、行動している子供が増えてきていると思う。
行動づくり 自分も仲間も大切にできる子供の育成	11	子供は、安心・安全な学校生活を送っている。	B 2. 62	<ul style="list-style-type: none"> • 怪我や体調に気をつけている。 • 大きなトラブルやケガなどが無い。 • 危険な行動や行き過ぎた行動が目立つ。廊下や階段を走る、飛び降り・教室の遊び方など • 廊下・階段歩行、安全な行動に対する意識がいまひとつなので、高めたい。 • WBGТの制限をほとんどの子が守れた。 • 担任だけでなく、担任外の先生や友達との関係で、それぞれの教室で安心な学校生活を送っている

①安心・安全な学校づくり ②違いを優劣なく認め、互いを尊重し合う学校・学級づくり ③唯一の存在としての自分づくり ④自己決定する場の積み重ね (当事者意識) ⑤対話を通して合意形成する場 (子供同士を言葉でつなぐ) ⑥行動の教育			ように見える。安全については、実践としてできるようにしていきたい。 ・安心な学校生活を送っていると思うが、安全面はもう少し。 ・先生方の安心・安全な学校運営・指導が、多くの子供たちに伝わっていると感じる。 ・廊下歩行や階段移動など、まだまだ走る。遊び場所がない時、教室や廊下の過ごし方が危ない。 ・先生方の声かけで留意点を知り、安心・安全な学校生活を送っていると思う。 ・危険に対してお互いに声を掛け合い、気を付ける場面も見られる。
	12	子供は、自分も友達も大切にしている。	・友達を積極的に休み時間遊びに誘い、仲良く遊んでいる姿が見られる。 ・項目3と同じ。自分ファーストな行動が非常に目立つ。(4年生) ・3に同じ ・困っている子を気遣える子が多い。 ・校長先生の話を聞いて、大切にすることはどういうことなのか理解はしていると思うが、行動につながっている姿はあまり見られない。 ・友だちは大切と思っているようだが、行動に繋がっている姿はあまり見られない。 ・自他を大切にするために、普段の言葉づかいにも意識を向けさせたい。 ・日常的に、人を傷つける言葉遣いがある。 ・大切にしていると思う。 ・友達の事を良いところを先生に教えてくれる児童の姿がある。
	13	子供の自尊感情(自分が好き、自分を大切に思う気持ち)は育っている。	・挑戦できる自分が素敵だといつも指導している。 ・自分を卑下するような発言を聞かない。 ・子供の言動の節々にあまり自尊感情の高まりは感じられない。 ・道徳や学活、日常の様々な場面で大切に育てている。 ・課題に向かう気持ち(前向き・後ろ向き両方)や行動を認めることで、ありのままの自分を受け入れられるようになってきた子もいれば、まだ途上の子もいる。(特支) ・児童会活動を見ていると、他の人と意見が違って自分の気持ちを大切に語れる子がいる。 ・周りの人たちから認められる経験を積むことで、少しずつ自尊感情が育ってきていると思う。 ・子供たち同士のかかわりの中で、自尊感情が培われていると感じる。 ・自信がない児童もいる。 ・少しずつ、育ってきている。
14	子供は、見通しや当事者意識をもって自分の行動を決定している。	・自己決定を促す声かけをしている。 ・自分のことは、自分で決めることを約束している。 ・項目1・2と同じ。目的に合う手段を選ぶ力が弱いため無鉄砲な決定になりがち。(全校生) ・「見通し」は子供たちも慣れてきている。しかし、当事者意識がもてていない様子が見られる。自分の関わりの薄いところには、無関心な様子が多々ある。 ・自分事となるようにめあてや役割をしっかりと掲げて取り組んでいる。 ・予定を知らせることで、どんな準備が必要かを考えていた。 ・まだまだその場やその時のことだけで行動を決めている。見通しをもっているのはごく一部。 ・見通しをもって行動していることが少なく、自己決定を促す声かけをしている。 ・自己決定ができるとともに、自身の行動に責任をもてる子供を増やしていきたい。 ・全体への指導は、聞き流してしまう傾向がある。 ・なかなか難しいと思う。 ・子供たちの行動を見ると、全体的に誰がやってくれるだろうという雰囲気を感じられる。	

	15	<p>子供は、対話を通して課題を解決したり折り合いをつけたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで折り合いをつける力が徐々に付いている。 ・友達と関わって課題をクリアしている姿がよく見られるようになった。 ・項目4・7と関連。議論の中で折り合いをつけることができている。(4年生)そう考えると自分ファーストだけではないのかもかもしれない。 ・No.4と同文 ・培ってきた対話が好きで、大切に思っているのが、言動から伝わる。 ・学年やその子の実態に合わせ、教職員が言葉をつけたしたり、間を取り持ったりして、課題解決・折り合いをつけた。(特支) ・6年生の姿を見ていると、もめそうな場面でも、粘り強く話し合っ折り合いをつけている。 ・子供同士で課題を解決したり折り合いをつけたりすることもあったが、大人が間を取り持ったりすることもあった。 ・今年度全国学力・学習状況調査において、6年生は、「話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」という項目が、学年として高く意識されている。 ・子供同士のやり取りは未熟さもあるが、言葉で伝えようとする児童の姿も見られる。 ・感情がコントロールできないと対話や折り合いをつけることは難しい。 ・清掃の分担決めで、うまく折り合いをつけられず不満が出た時に自分たちで解決する力が弱い。
	16	<p>子供は、相手や場に応じた適切な行動ができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会では、静かに整列し、話を聞くことができている。 ・具体例を取り上げながら、逐一指導していかないと分からない児童が多い(4年生) ・「相手に応じて」は概ねできているように感じる。しかし、「場に応じて」はまだまだ。集会をとってもお辞儀を返さないなど、課題点はたくさんである。 ・通学班やなかよし班などで、自分なりに考えてかかわっているようだ。 ・廊下を走る、トイレで遊ぶ、など適切な行動がまだ難しい子がいる。 ・子供達は相手や場に応じた適切な行動をしているつもりかもしれないが、適切な行動を見せている人が多くないか、それが適切な行動だところちが価値づけられていないか…。まだ適切なようには感じない。 ・まだ相手や場に応じた適切な行動ができていないと思う。 ・場に応じたよい行動を価値づけ、相手意識を高めていきたい。(言葉遣い・態度) ・多くの児童はそう思うが、あいさつに関しては難しい。 ・自分の中でわかっていても、適切な行動ができないところがある。 ・初めて会う人や大人に対しての挨拶や話をきちんと聞こうとする姿勢が良い。
<p>体づくり 自律的に健康づくりができる子供の育成 ①教科体育の充実 (体力の向上・運</p>	17	<p>子供は、体力の向上を意識して生活している。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">2. 69</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に体を動かしている。 ・体を積極的に動かしている子供が多い。 ・体を動かして遊ぶのが好きな児童が多いが、体力の向上を意識できているのかは不明。 ・休み時間を見ても、体を進んで動かす子が少ないように感じる。また体育の授業でも、体力の低下を感じる。 ・体力向上の意識が低く、取り組みがほほない。 ・休み時間、体を動かす子と、そうでない子に分かれている。 ・積極的に体を動かす子供が多い。 ・体を動かすことが好きな子供が比較的多いと感じる。 ・日常の運動には個人差がある。

動好き) ②望ましい生活習慣・食習慣の確立(自己コントロール力) ③学びを通じた危機管理意識の向上と組織的な即時対応	18	子供は、運動やスポーツが好きだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上を意識しているかはあまりわからない。 ・学校生活の中で自ら運動をしている子供は、一部の児童に限られている。 ・体を動かし、外に遊びに行く児童が多い。 ・体を動かすことが好きな子供が多い。 ・体を動かして遊ぶのが好きな児童が多いと感じる。 ・比較的好きな子供が多いように感じるが、特定のスポーツや運動が好きという人も多い。また、一定数嫌いと思っている子もいる。 ・体育や係の呼びかけがあると楽しんで取り組む。 ・見守りでどのブロックの水泳学習も見したが、ほとんどの子が楽しく水泳学習ができていた。 ・個人差はあるが、自分なりの目標をもって取り組んでいる子供が多い。 ・個人差があるが、ほとんどの子供が好きで、よく体を動かしている。 ・各運動やスポーツに積極的に取り組んでいるように見える。 ・体を動かす遊びを好む児童が多いが、高学年では男女差や個人差が広がる。 ・好きだと思う。 ・運動会ではどの学年も盛り上がり楽しむ様子が見られた。
	19	子供は、基本的な生活習慣・食習慣(自己コントロール力)が身についている。	<ul style="list-style-type: none"> ・園からの引継ぎでも残菜の多い学年だと聞いている。さまざまな手立てをしていきたい。 ・早寝・早起きができています。 ・姿勢の悪さ、好き嫌い、ハンカチ忘れなど多い。 ・言われればするが、自己管理はまだできない印象。 ・メディアコントロール・食事・睡眠の面で、課題が見られる子・家庭が多い。 ・手洗いうがい、給食の時間の様子から、自分から体のことを考えている様子が見られる。 ・低学年は食が細い子供が多い。朝食をしっかりと食べていない子供がいた。 ・身につけている子もいると思うが、学校だけでなく家庭も巻き込んで身に付けさせていきたい。 ・寝不足による睡眠不足。朝食欠食や偏食。ハンカチ忘れ。自己コントロール力は低い。 ・早ね・メディアコントロールは課題が多い。 ・給食の場では、低学年、中学年がまだ不十分だと感じる児童が多い。 ・基本は出来ていると思う。
	20	子供は、自然災害時の避難、交通事故防止、不審者対応などの方法を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年はこれから避難訓練、安全教室を通して体験を増やし、身に付けさせる。 ・意識して訓練に励んでおり、「いかのおすし」「おかしも」を覚えている。 ・普段から意識できていると思う。 ・分からない。項目1と同じように考えれば、身を守る手段を選ぶことは苦手なのかもしれない。 ・授業や避難訓練の時に、子供たちの行動や言動に定着を感じる。 ・すぐに知らせられるようになってきている。 ・「いかのおすし」「おかしも」の合言葉が、子供たちの口から自然と出ていた。 ・避難訓練の様子だけでなく、社会や国語、道徳など様々な学習で学び知識として身につけている。 ・様々な学習で学び、知識として身につけている。訓練でも、きちんと対応できた。 ・実際に起こった各事例などを取り上げ、理解が判断 ・行動へと結びつくようにしていきたい。 ・繰り返しの避難訓練で身につけているものもある。 ・訓練も実施したので、身につけていると思う。 ・避難訓練時には真面目に訓練に参加する様子が見られた。

目指す教師像	21	教師として学び続けている。(AARサイクル、授業改善、自己研鑽)	B 3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究、改善に励んでいる。・まずはやってみることを大事にし、実践している。 ・日々の多忙さに追われ、先生方が落ち着いて学ぶことができていないように感じる。 ・今までのやり方に固執せず、新しいやり方などを試していこうと、学ぶ姿勢が見える。 ・教材研究に励んでいる。 ・わからないこと・授業で悩んだ時は、周囲の先生方はどうするか聞き、自分なりに実践してみた。 ・先生方は AAR 会議だけでなく日々の仕事の中で学び続けている。 ・分からないこと等があったら、先生方に相談し、参考にして挑戦した。 ・会議・研修のみならず、明るい職場の中で、先生方は日々話し合い相談し合いながら学び続けていると感じる。 ・「まずやってみる」を意識し取り組んでいる。 ・日々、学ぶことがたくさんある。 ・AARサイクルの中で、特に自分の行動を振りかえることを意識して行っている。
	22	積極的に子供や家庭、地域とつながっている。		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に学校での出来事をこまめに連絡している。 ・一部の家庭とは、積極的につながっていると思う。 ・今年に限って特別なことをしているわけではなく、南部のスタンダードとして A だと思う。 ・地域人材の活用など、様々な教科で利用している。 ・地域と「積極的に」まてはつながっていない。 ・子供の様子で気になることがあると、家庭と連絡を取った。 ・地域の方と連携した学習を行っている。 ・保護者に学校での出来事等を連絡している。 ・各種イベントを通して家庭、地域とつながっていると感じる。 ・子供一人一人の名前を大事に対応している。 ・地域とのつながりはよくわからない。
	23	働き方改革(健康、AARサイクル)を意識しながら勤務している。		<ul style="list-style-type: none"> ・意識して勤務している。 ・業務支援員さんに任せられる仕事も増え、担任業務が精選されてきていると感じる。 ・仕事に優先順位をつけ、進めることができた。 ・退勤時間を意識し、優先事項を決めて取り組んだ。 ・協力しながら働くことができていますが、一部の先生に負担がかかっている部分もあると思う。 ・「本当に必要か」という視点から校内における働き方改革をさらに進めていく必要がある。 ・TODO リストを活用し、計画的な執務を目指すのが、児童対応は突発的なもので全てが計画通りではない。 ・時間の使い方を適時振り返っている。新しいアイデアを取り入れる気持ちを持ち続けている。

自ら行動する力 【自律】	踏み出す力 【挑戦】	人を大切にする力 【尊重】	考え抜く力 【創造】	学びづくり 主体的・協働的	行動づくり 自他を大切に	体づくり 自律的健康	目指す教師像
B 2.53	B 2.62	C 2.46	B 2.62	B 2.69	B 2.62	B 2.69	B 3.0